

「八戸市新美術館整備基本構想（案）」へのご意見と市の考え方について

1. 意見募集の実施期間 平成28年6月21日（火）～7月20日（水）
2. 寄せられた意見数 85件（提出者 23名）
3. 意見の内容と市の考え方

いただいたご意見を整理し、概要を以下にまとめております。

No.	意見内容（概要）	市の考え方
1	新美術館の整備について ハード面の建物だけでなく、それ以後のソフト面の活動を視野に入れた青写真を描くことで、実際的な建物の建設につながる。細かいことは建物が建ってからと考えないで、あらゆる面を検討して新美術館の着工にあたって欲しい。	計画の段階からハード面のみならずソフト面を含め、市民や有識者の方々などのご意見をいただきながら検討して参ります。
2	新美術館の整備について 美術館建設にここまで待ったのだから、充分すぎるくらい検討を重ねて、百年先も活用できるものを作って欲しい。格好だけの意見募集にならないよう、透明感のある経過報告と同時に進度に合わせて繰り返し意見を聞いていくべきと思う。	今後の計画策定にあたり、なるべく多くの市民の皆様からのご意見をいただけるよう、勉強会やシンポジウム、ワークショップ等を開催するとともに、検討の過程についてはホームページ等で情報公開して参ります。
3	基本理念について（P1） 県唯一の国宝や縄文の遺跡を活かす、地域や先人を活かす理念が欲しい。	新美術館では、八戸の文化や自然・歴史なども含め、地域資源をアートの切り口で捉え直すような、地域性を大事にした取組を検討して参ります。
4	新しい美術館のミッションについて（P2） 基本方針にある本物の美術とか地域の宝、地域性にこだわる、出会いと生活の中にアートを、という考えは大賛成だが、もっと具体的な実感的な表現が欲しい。アート中心と言うが、民芸的なものも含める広さがあつてよい。	基本構想は新しい美術館の基本的な方針を示すものであり、より具体的な事業内容等につきましては、今後の計画策定段階において検討して参ります。
5	基本方針／「本物」の美術と向き合える、心を揺さぶる美術館（P2） 「本物」の美術と向き合う空間というのは非常に重要な指針であると思うので、「本物」とは何かを慎重に突き詰めて欲しい。県内美術館はコンテンポラリー系アートに傾倒しているように感じている。他県では常設としてきちんと歴史的価値のある作家のファインアート（アカデミックな芸術作品）があつて、その上で企画展としてコンテンポラリー系作品を展示する例が多く、現在の市美術館でも同様かと思う。新美術館においても、今のように所蔵作品をメインに展示できるような構造にして欲しい。	新美術館においては、収蔵作品を活用した地域性をテーマとした展示を想定するほか、現在市内で開催されているアートプロジェクトの活動拠点としての活用も考えております。また、県内の美術館を訪れる客層の取り込みを視野に入れながらも差別化を図り、八戸らしい独自性ある美術館としての整備を考えております。

No.	意見内容（概要）	市の考え方
6	<p>基本方針／生きたコミュニケーションの場と、出会いを生み出す美術館、アートが身近にある暮らしを提案する美術館（P2） 他県の美術館には「非日常的な空間」の良さがある。それが日常的なものあまり結びつきすぎるのはどうかと思う。コミュニケーションとしての役割は「はっち」があり、まちづくり等は「はっち」の機能で十分。美術館が単なるコミュニティセンターではなく、美術を最大限に発信する非日常的な空間であって欲しい。あまり多くを詰め込まず、「美術館」としての品位を落とさないで欲しい。一見敷居を高くするよう感じられるが、身近に素晴らしい作品の所蔵空間があるということが八戸の美術レベルを上げ、市民が将来的には本物の美術作品に本当の意味で親しみを持つことができるようになると思う。「はっち」や公民館との役割分担をきちんとして欲しい。</p>	<p>新美術館において、非日常的な空間をどのように演出するか、今後具体的に検討して参ります。 一方で、従来の美術館の軸のほか、アートセンターの軸とエデュケーションセンターの3つの軸を持つ美術館として、どなたでも気軽に楽しんだり活動できる空間整備が必要と考えており、様々な利用形態に対応しながらも、非日常性が感じられる美術館としてバランスのとれた整備を検討して参ります。 また、「はっち」や周辺施設については、機能の相互補完など連携を図って参ります。</p>
7	<p>事業展開の基本的な考え方（P3） 全体的に美術館で扱う「アート」の捉え方が広すぎる。アートを広く捉えると、形として残らない作品、演劇や郷土芸能、音楽、パフォーマンスなども入ってくる。現在全てのアートの受け皿となっているのははっちであり、アートセンターとしての役割を担うべき、文化政策部門を置くべきなのははっちだと考える。美術館がはっちの役割を奪ってはっちの存在意義が薄れること、アートの中の美術の位置づけを美術館があいまいにしまい、市民にとってわかりづらい、利用しづらい施設になってしまうことを懸念する。文化の司令塔ははっちであるべきで、美術館は美術に特化し、美術を充実させて欲しい。</p>	<p>100年先を見据える美術館として、幅広い分野の創造活動や、新しい表現活動などにも対応できるよう、基本構想では扱う美術の分野を限定せず、「アート」という表現を用いています。 新美術館は、「はっち」や周辺施設と機能の相互補完など連携を図るとともに、市民の皆様にとって利用しやすい施設となるよう、検討して参ります。</p>
8	<p>新しい美術館のアクションについて（P4） 事業展開①～⑧まで、極めて館として当然の組織や事業であり、注文はないが、組織を企画し、実践し、反省し、一層向上していく組織を動かすのは優れた人間集団。日本の一流のリーダーを揃えることを要望する。</p>	<p>新美術館の構想や計画策定にあたっては、国内外の美術の動向や美術館運営のあり方に精通した方々や、当市の文化政策に日頃助言をいただいている方々を中心とする委員で構成する会議において検討を行っております。ご意見は、今後新しい美術館の運営体制のあり方を検討する中で参考といたします。</p>
9	<p>事業展開（P4） 美術・芸術に対して市民が見聞を広げ学んでいく手立てとしてITやビデオ、3D映像を活用すべき。内外の有名美術館の展示品・収蔵品の一級作品が解説付きで映像で鑑賞できるなら、作品への理解も深まり芸術・美術への関心も高まると思う。また、作品の制作過程をビデオや3D映像で学ぶこともできる。モニターが数台置いてあり、団体でも見られるように大型スクリーンの部屋もあれば教育上でも使えると思う。</p>	<p>新しい美術館の具体的な活動内容については、基本構想策定後の管理運営基本計画の策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
10	<p>事業展開／収集保存事業（P4） 郷土にゆかりの画家の作品はもちろん、目玉となる有名作品は必要。</p>	<p>新しい美術館における作品の収集方針については、基本構想策定後の管理運営基本計画の策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
11	<p>事業展開／収集保存事業（P4） 青森県立美術館のアレコのように目玉となる、わかりやすい美術品が必要と考える。この作品が見たいから八戸に行くという流れをつくるためにも1つでもいいので、何か超一級の作品を購入すべきと考える。</p>	<p>新しい美術館における作品の収集方針については、基本構想策定後の管理運営基本計画の策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
12	<p>事業展開／収集保存事業（P4） 超目玉（例えばゴッホのひまわり等）を用意するのではなく、収蔵品や地元を優先する姿勢はいいと思う。予算的にも。いくら素晴らしいものでも飽きる。何回も見に行くものではない。</p>	<p>新しい美術館における作品の収集方針については、基本構想策定後の管理運営基本計画の策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>

No.	意見内容（概要）	市の考え方
13	事業展開／収集保存事業（P4） 現在活躍中の市内画家の作品を収集すべき。地方の美術館の大きな仕事は地元作家の育成、作品収集、保存することにある。無名作家の発掘も大事。地域の美術史に空白を作らないために是非取り組んで欲しい。	新しい美術館における作品の収集方針については、基本構想策定後の管理運営基本計画の策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
14	事業展開／収集保存事業（P4） 中核市となる八戸市として、市内はもとより、三戸郡や上十三地区、下北地区、岩手県北との文化遺産と資料の情報を収集して、資料照会への回答が多面的かつ容易にできるような機能を備えて欲しい。他市町村だけでなく、市内の図書館、博物館、縄文館での書籍や資料についても問合せに回答できるよう機能の一元化を望む。	新しい美術館では、市内の博物館等の施設のみならず、連携中枢都市圏を形成する近隣市町村等との連携も視野に入れております。具体的な活動内容については、基本構想策定後の管理運営基本計画の策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
15	事業展開／収集保存事業（P4） 諸機能の整備イメージについて（P10） 収蔵室が設けられるのはうれしいが、保存技術が心配。現美術館のコレクションは全て博物館で管理しており、現美術館の学芸員も1、2名と記憶しているが、適切に保存できるのか。	新しい美術館は「博物館相当施設」としての要件を備えた整備を考えており、収蔵品の適切な保存管理ができるよう、運営体制を含めて今後検討して参ります。
16	事業展開／調査研究事業、展示事業（P4） 諸機能の整備イメージについて（P10） 現在の八戸に作品が点在していたり、作品ゆかりの場所がどこかといったことも調査研究の対象にして欲しい。作品と関連する過去だけを展示しても身近な興味として捉えることはできない。鑑賞者が気づきや次のアクションにつながる調査研究を展示に活かして欲しい。展示は興味を惹くことから始まって、引き込んでいける工夫をして欲しい。	地域性を大事にする美術館として、八戸の文化を継承していくという観点から、八戸にゆかりのある作家や作品と、その周辺環境も含めて調査研究の対象になるものと考えております。また、調査研究の成果を展示に活かす工夫も検討いたします。具体的な内容については、基本構想策定後の管理運営基本計画の策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
17	事業展開／収集保存事業、展示事業（P4） 戦後、柴田正一氏により「富士画廊」が創設され、市民の心を大いに潤して美術・芸術活動を盛り上げてきたと聞く。現在に伝える資料は詩人の村次郎を中心としたものであり、その他多くの優れた活動や作品が忘れられたままと言われている。これらの埋もれた活動が掘り起こされることで、八戸市には優れた美術・芸術活動が幾十年も前から営まれてきたと再認識され、これからの美術・芸術活動を目指す若い世代の大きな刺激となると考える。このため、柴田氏の活動をはじめ、戦後から今日に至る美術・芸術活動を顕彰し、資料収集して市民に広く紹介して欲しい。	「富士画廊」は、芸術や文学に心を寄せる若者たちのサロンの場として様々な活動が行われ、棟方志功や渡辺貞一など青森の画家もよく訪れるなど、八戸の美術史を語る上では外せない要素と考えております。地域性を大事にする美術館として、八戸の美術史において非常に高い価値がありながらも、広く知られていない作家や作品、活動などにスポットをあてるような取組を検討して参ります。
18	事業展開／展示事業、教育普及事業（P5） 市民目線での展示を考えて欲しい。小中高大学での学生の優秀作品及び一般市民の優秀作品の展覧会を企画し、その年の最高作品を市民ギャラリー等で常設展示し年度毎の常設も計画すれば、競争による制作意欲もわき、美術・芸術への認識が広まっていくと考える。絵画、書にかかわらず、写真、工芸と分野を広げて展示して欲しい。	新しい美術館の具体的な活動内容については、基本構想策定後の管理運営基本計画の策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
19	事業展開／教育普及事業（P5） 既存の価値観を後世、次世代に伝える（教える）ことよりも、自らの創作力を高め、年齢の上下に関係なく共に高めていくまちであって欲しい。結果として創造性にあふれた人を増やしたい。	上から何かを一方向的に教え諭すような「教育」ではなく、自ら感じ取り、育まれていくような「共育」（エデュケーション）の考え方により、創造性にあふれた人を増やしたいと考えております。

No.	意見内容（概要）	市の考え方
20	事業展開／教育普及事業（P5） 現在、特に中学校には美術専科の教師がほとんどおらず、授業は週1回しかない。美術の時間は優れた芸術作品に感動する機会だけでなく、悩める生徒にとって魂の解放の場であり、教師にとっては内気な生徒の心の内面を捉える機会だった。その美術の授業時間が担っていた教育の重要な役割の一旦を果たすよう、悩める子どもたちの魂を救う役割を後押しして欲しい。具体的には、小中学校や高校への出前授業を積極的に実践して欲しい。経費や人材面から難しければ、ボランティアを募って実施してはどうか。	「エデュケーションセンター機能」を備える美術館として、学校教育との連携は必要不可欠なものと考えております。具体的な活動内容については、基本構想策定後の管理運営基本計画の策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
21	事業展開／市民活動支援事業（P5） 諸機能の整備イメージについて（P10）5ページにある「貸し工房」とは、10ページで言う教育普及のことか。美術館が市民のために場所と設備を用意してくれるのであれば大変ありがたい。是非文字通りの貸し工房を用意して欲しい。	基本構想（案）に掲げた諸室については現時点でのイメージであり、今後詳細な計画を策定する段階において精査し、限られた面積の中で必要な機能をどれだけ整備できるかを検討して参ります。なお、貸し工房としては、現在「はっち」の5階に工作室があり、有料ですが一般の方の利用が可能となっております。
22	事業展開／市民活動支援事業（P5） 市民ギャラリーでの市民の作品展示は既にはっちがその機能を果たしているの、市民の作品展示をするのであれば、対象を子どもや学生に限定してはどうか。大人のアート作品等の展示の場は、はっち以外にもさくらの百貨店や三春屋、吉田産業ショールームの一角その他いろいろある。大人の作品はそうした既存の場所に委ね、美術館では子どものワークショップでの作品や公募した子どもたちの作品などを展示する場所にして欲しい。そうすれば親子で美術館に来るきっかけにもなり、学校の美術の先生の研修会にもつながる。美術館を安価に借りられると大人はこぞって申し込み、子どもの作品発表の場が狭められる。	「はっち」のギャラリーは小規模なため、現在の美術館で行われている市民の作品展示を行うには、広さが不十分です。また、周辺のギャラリーも同様であり、現在の美術館利用者の方々を中心に、大型作品の展示等も行える規模の市民ギャラリーを希望する声が多い状況にあります。諸室の整備については今後詳細な検討を行います。市民ギャラリーを設ける場合は、一般的な公共施設と同様に、広く市民の皆様にご利用いただける方法を採用したいと考えております。なお、子どもや学生の作品発表等については、「エデュケーションセンター機能」を有する美術館として、特徴的な活動が展開できるよう、今後、管理運営計画を策定する段階において具体的に検討して参ります。
23	施設整備方針／建設予定地（P6、7） 新美術館を成功させるためには、青森銀行八戸支店、市庁前交番との連携も必要。	建設予定地については、市有地と青森銀行様の土地とを合わせた敷地の中で一体的な協調開発を行うことを前提に、新美術館と青森銀行八戸支店新店舗の新たな配置を検討することとします。
24	施設整備方針／建設予定地（P6、7） 敷地については青森銀行八戸支店も取り込む形で考えて欲しい。その方が地形が良く活用しやすい。	建設予定地については、市有地と青森銀行様の土地とを合わせた敷地の中で一体的な協調開発を行うことを前提に、新美術館と青森銀行八戸支店新店舗の新たな配置を検討することとします。
25	施設整備方針／建設予定地（P6、7） 現状のままでは三日町方面から来ると新美術館が見えない。青森銀行の移動を願いたい。	建設予定地については、市有地と青森銀行様の土地とを合わせた敷地の中で一体的な協調開発を行うことを前提に、新美術館と青森銀行八戸支店新店舗の新たな配置を検討することとします。
26	施設整備方針／建設予定地（P6、7） 隣接する青森銀行の敷地は、新美術館を整備する上で是非とも必要と思われる。この敷地が利用できないと建設地はいびつな形となり、将来的に十分なアート空間を対応整備する計画ができないのではと思われる。	建設予定地については、市有地と青森銀行様の土地とを合わせた敷地の中で一体的な協調開発を行うことを前提に、新美術館と青森銀行八戸支店新店舗の新たな配置を検討することとします。
27	施設整備方針／建設予定地（P6、7） 通常であれば矩形の敷地に対して計画を進める方が常套手段であるが、敷地に隣接する3面の道路と連続する街並みが異なるため、この敷地でしか実現しない建築の形や建ち方に可能性を感じる。また、美術館の敷地に取り囲まれるようにして一部の敷地が余白として残るため、将来的に活用できる可能性を持っているように感じる。	建設予定地については、市有地と青森銀行様の土地とを合わせた敷地の中で一体的な協調開発を行うことを前提に、新美術館と青森銀行八戸支店新店舗の新たな配置を検討することとします。

No.	意見内容（概要）	市の考え方
28	施設整備方針／建設予定地（P 6、7） 予定地を「まつりんぐ広場」に変更するべき。現在地では駐車場スペースの確保が困難であること、民営駐車場はその存続があてにならず、本八戸駅前再開発で人の流れや活性化が変化したらますます駐車場を確保できにくい状況になると思われる。まつりんぐ広場ならある程度の駐車場確保が可能。柔軟な発想で50～100年後を想定すべき。現在予定地とまつりんぐ広場を交換することで、内丸で三社大祭専用のスペースの確保ができ、冬期間はえんぶりや公会堂を中心とする各種イベントの駐車場としても利用できる。三日町周辺に公共施設を集中させる構想には、駐車場確保の問題や地権者優遇への不公平感が残る。	本事業は、平成25年に第2期中心市街地活性化基本計画に位置づけ、平成27年に国の社会資本整備総合交付金事業としての計画認定を受けて進めているものであり、事業費や周辺の土地・施設活用、公共交通機関など市民や観光客の利便性等を考慮し、現在予定地での整備が決定されたものです。
29	施設整備方針／建設予定地（P 7） 美術館は静かな環境でじっくり鑑賞できるのがよく、はっちみたいにいろいろ盛り込んでまちの活性化に結びつけ集客を狙うことで本来持つべき雰囲気は壊してはならないと思う。イベントも費用がかかり、まちに飛び出すと言ってもビルの中でやる企画には限りがある。これらの事を考えるとむしろ三八城公園内に建て、公園内を活用しながら市民に親しんでもらうようにしたほうが将来的に活用の幅も広がると考える。この点、再考願えないかと思う。	従来の美術館としての軸に、アートセンターとエデュケーションセンターとしての軸を持つ新しい美術館として、「はっち」とは違うアプローチで賑わいを生み出しつつも、非日常性を体感できる美術館としての整備を検討して参ります。また、建設予定地につきましては、本事業は平成25年に第2期中心市街地活性化基本計画に位置づけ、平成27年に国の社会資本整備総合交付金事業としての計画認定を受けて進めているものであり、事業費や周辺の土地・施設活用、公共交通機関など市民や観光客の利便性等を考慮し、現在予定地での整備が決定されたものです。
30	立地特性に基づく整備方針（P 7） 各通りに開かれ、特に中心市街地からの利用者アプローチに対して美術館の顔だしは、緑化された屋外展示空間とともに街と融合する美術館として実現して欲しい。	周辺の街並みとの調和や、回遊性を意識した新しい美術館の整備を検討して参ります。
31	立地特性に基づく整備方針（P 7） どんなに立派な美術館を作っても、美術館単体で人を集めることは限界がある。美術館とその周辺エリアも一緒に整備しなければ人は集まらない。美術館を核として、市民誰もが行きたいと思う魅力的な街並みを作って欲しい。フードコート、ファッションコート、手作りコートなど配置して。50年先の魅力的な美術館周辺の街並みを思い浮かべながら、道路、店舗、森、林、文化施設などその一帯を整備して素敵な美術館通りを作って欲しい。	周辺の街並みとの調和や、回遊性を意識した新しい美術館の整備を検討して参ります。
32	立地特性に基づく整備方針（P 7） 将来的には内丸地区の公共施設の広場や公園、道路等もアートの展示空間として利用し、新美術館を中心に、都市と一体化したアート空間を整備して欲しい。	周辺の街並みとの調和や、回遊性を意識した新しい美術館の整備を検討して参ります。
33	建物の規模と必要な機能について（P 8） 地方創生の成功例と失敗例を比較すると、バブル時代のような大げさな建物ではなく、シンプルでも気品を漂わせる建物の方が若者たちを近づけている。青森、十和田に続く謙虚で優雅なアートスポットにして欲しい。	周辺の街並みとの調和や、回遊性を意識した新しい美術館の整備を検討して参ります。
34	建物の規模と必要な機能について（P 8） 新美術館は、市民に親しみやすくありながら、美術館としての風格を持ち、「はっち」と一線を画するものであって欲しい。	従来の美術館としての軸に、アートセンターとエデュケーションセンターとしての軸を持つ新しい美術館として、「はっち」とは違うアプローチでの親しみやすさや賑わいを生み出しつつも、非日常性を体感できる美術館としての整備を検討して参ります。

No.	意見内容（概要）	市の考え方
35	<p>建物の規模と必要な機能について（P8） 外観はモダンに、中身はレトロに。重厚でしっかりとした建物にして欲しい。美術館は「美の神殿」、土足でズカズカ入るような場所ではない。</p>	<p>美術館の建物は重要な要素の一つと認識しており、機能的でありながらも基本構想に掲げる理念を具現化したシンボリックな建物となるよう、検討して参ります。具体的な規模や機能については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
36	<p>建物の規模と必要な機能について（P8） うつわ作って魂入れずにならないよう、市民が作ってよかったと思うものを具体化して欲しい。今年新美術館を熱望する会が開催していた小中学生の作品展を充分参考にして欲しい。アートはとかく人工的なものをイメージしがちだが、大自然の造形も大事。外側の自然を活かした館にして欲しい。</p>	<p>美術館の建物は重要な要素の一つと認識しており、機能的でありながらも基本構想に掲げる理念を具現化したシンボリックな建物となるよう、検討して参ります。具体的な規模や機能については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
37	<p>建物の規模と必要な機能について（P8） 八戸市美術館は日本国内の美術館なので、移民や革命、国家を勝ち取るなどという経験がない日本人にはおおよそ消化しきれない西洋の真似や近未来的な建物にはしっくりこないと思われる。明治維新から始まり戦後以降も踏み荒らされてしまった日本の美意識を、この美術館をきっかけに取り戻したい。現在本八戸駅前から市庁にかけて日本情緒を感じさせる佇まいを目指した再開発が進んでおり、文化の薫り高いまちを目指す上で、文学的なものや日本的なものは欠かすことができない要素になっていると思う。現在の街や日本という土地に溶け込むものの例として、根津美術館のような落ち着いた印象を見習って欲しい。隈研吾氏に自然素材による伝統と現代の融合というコンセプトをもとに設計をお願いできれば最高と思う。</p>	<p>美術館の建物は重要な要素の一つと認識しており、機能的でありながらも基本構想に掲げる理念を具現化したシンボリックな建物となるよう、検討して参ります。具体的な規模や機能については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
38	<p>建物の規模と必要な機能について（P8） ニューヨーク近代美術館のように館内から外の景色を見られるようにした工夫も、街とつながっている感じがいいと思う。</p>	<p>美術館の建物は重要な要素の一つと認識しており、機能的でありながらも基本構想に掲げる理念を具現化したシンボリックな建物となるよう、検討して参ります。具体的な規模や機能については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
39	<p>建物の規模と必要な機能について（P8） 一番大切なのは外観。人はまず外観を見て建物に入りたいと心が動くと思う。コストの問題もあるが、レンガの建物がいい。緑やモニュメントも欲しい。</p>	<p>美術館の建物は重要な要素の一つと認識しており、機能的でありながらも基本構想に掲げる理念を具現化したシンボリックな建物となるよう、検討して参ります。具体的な規模や機能については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
40	<p>建物の規模と必要な機能について（P8） バリアフリー、ユニバーサルデザインの採用を検討して欲しい。</p>	<p>ユニバーサルデザイン対応については極力配慮したいと考えております。</p>
41	<p>建物の規模と必要な機能について（P8） 3部門でこれだけの事業をこなすには、もう少し床面積を確保した方がいいのではないかと。4,500㎡は絶対確保、+1,000㎡欲しい。</p>	<p>どれだけの延床面積が確保できるかは今後詳細に検討いたしますが、敷地面積等の関係から、3,500～4,500㎡にとどまるものと想定されます。このため、フレキシブルな利用が可能な諸機能整備を検討して参ります。</p>
42	<p>建物の規模と必要な機能について（P8） 施設規模があまりにも小さすぎる。多機能性を持たせるには一定の大きさが必要。青森県立美術館や金沢21世紀美術館等を考えても、最低でも延床面積10,000㎡以上、展示収蔵施設として5,000㎡以上が必須と考える。市博物館が当時過大と言われながら決断した結果、博物館の大型化に一定の対応ができてきている現状を鑑みれば、将来を見据え、しっかりした建築を行う事こそ将来的に評価されるものとする。</p>	<p>どれだけの延床面積が確保できるかは今後詳細に検討いたしますが、敷地面積等の関係から、3,500～4,500㎡にとどまるものと想定されます。このため、フレキシブルな利用が可能な諸機能整備を検討して参ります。</p>

No.	意見内容（概要）	市の考え方
43	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）館内は「触れる」「体験」「喫茶」「グッズ販売」と共に、イヤホンを活用したガイド機器を是非採用して欲しい。	新しい美術館の具体的な活動内容については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
44	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）世界遺産に関するビデオなど、美術品に限らず芸術一般におけるビデオライブラリーを備えて欲しい。その上に専門書や各種講座が聴け、実技指導なども提供してくれる場になるといいと思う。	新しい美術館の具体的な機能については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
45	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）観光客、市民、小中学生の送迎用に美術館専用バスが必要。	新しい美術館の具体的な設備・備品等については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
46	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）創作の場があることを広くアピールし、全国あるいは海外からその場を求めている人を集め、長期滞在して制作にあたる場であって欲しい。	「はっち」には、招聘アーティストが滞在制作できる場としてレジデンスが整備されていることから、周辺施設との連携を考えながら、今後新しい美術館に必要な機能整備を検討して参ります。
47	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）コンサート用ピアノが欲しい。美術館のミニコンサートはおおかたの人が喜ぶ。	新しい美術館の具体的な設備・備品等については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
48	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）音楽的空間が欲しい。ピアノがあればいい。	新しい美術館の具体的な設備・備品等については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
49	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）カフェ併設、地ビールも提供。そして「スターバックス」を入れる。ライブ等ができる空間とパブリックビューイングできる空間を希望。	カフェ・レストランについては、市民アンケートにおいても設置を望む声が多く、このようなサービス施設の必要性について認識しております。具体的な内容については、美術館がオープンするまでの間に検討することになります。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
50	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）無料休憩スペースは長いすなどの少しの備品にとどめ、スターバックスのような都会的なカフェチェーン店または八戸で昔から評判のカフェを組み込んではどうか。無料スペースだと学生の勉強の場所・たまり場になりやすい。美術に興味のない人に美術館に来てもらい、アートの雰囲気を感じてもらうためにも、人気のあるカフェ店を併設してはどうか。	館内の無料スペースにおける利用ルールについては、「はっち」等の他の公共施設の運営状況も参考にしながら、オープン時までには検討いたします。また、カフェ・レストランについては、市民アンケートにおいても設置を望む声が多く、このようなサービス施設の必要性について認識しております。具体的な内容については、美術館がオープンするまでの間に検討することになります。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
51	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）レストランを充実して欲しい。地産池消、食事でお客様が呼べる。市内で一番おいしいレストランになれるように。	カフェ・レストランについては、市民アンケートにおいても設置を望む声が多く、このようなサービス施設の必要性について認識しております。具体的な内容については、美術館がオープンするまでの間に検討することになります。ご意見は、今後の検討において参考といたします。
52	建物の規模と必要な機能について（P 8、9）美術・芸術活動をする人たちのパイプ役となり、情報発信とともに若い人や無名人、誰でも日常的に交流できる場、サロンのような場所を設けて、気軽に出入りできる場にして欲しい。新美術館が情報発信（プルネン（噴水））と交流（サロン）の中心になって欲しい。	新しい美術館では、訪れた方々がアートを介して交流できる場や、気軽に来ていただけるような空間の整備を検討しております。ご意見は、今後新しい美術館に必要な機能整備を検討する際に参考といたします。

No.	意見内容（概要）	市の考え方
53	<p>建物の規模と必要な機能について（P 8、9） 照明は絶対天井から、室内のクロスはくすんだ薄紫にすると素敵だと思う。</p>	<p>新しい美術館の具体的な機能については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
54	<p>建物の規模と必要な機能について（P 8、9） 屋外空間について（P 9） 諸機能の整備イメージ（P10） 敷地内を通り抜け可能にし、広場があることは素晴らしいと思う。無料で通り抜け可能な場所を美術館内まで拡張してはどうか。必要があるから美術館に行くのではなく、なんとなく美術館を通った人にも、活動に興味を持ってもらえる可能性が高いと思う。また、通り抜け可能な1階の壁に、市民の作品を展示することもいいと思う。日常的に同じ市民の活動を感じられ、また文化的な場所であると意識することで、活動意欲が煽られると感じる。</p>	<p>偶然通りかかった人にも美術館の雰囲気を感じていただけるような導線を確認したいと考えておりますが、具体的な建物・外構整備のあり方については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
55	<p>建物の規模と必要な機能について（P 8、9） 諸機能の整備イメージ（P10） 教育普及の場所は絶対に1階に設けた方がいいと思う。アートプレイルームの場所をなくし、教育普及に使うべき。子どもだけの部屋を作り隔離することは、共育も来館者同士のコミュニケーションも阻害する。生涯教育は誰もが平等な立場で教え合い学び合うべき。是川縄文館の例に学んで欲しい。かわりに展示室を増やして欲しい。</p>	<p>一部スペースについては自由度の高い使い方ができる空間整備を検討しておりますが、具体的な諸室整備のあり方については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
56	<p>屋外空間について（P 9） 美術館の入口は番町側、またはロータリー側いずれにしても来客が利用しやすいことと、「はっち」など既存の施設と相乗効果を生かせるようにして欲しい。</p>	<p>来館者の方が利用しやすく、「はっち」などの周辺施設との相乗効果が生み出せるような施設・屋外空間の整備を考えておりますが、具体的な建物・外構整備のあり方については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
57	<p>屋外空間について（P 9） 市庁広場、ロータリー周辺は三浦哲郎氏の作品等にも紹介される八戸の名所であるため、ロータリーの歴史的樹木の保護には十分配慮するとともに、文学・街歩きガイド・アートとの融合を図り誘客できる新美術館にして欲しい。</p>	<p>周辺の街並みとの調和や、回遊性を意識した整備を検討して参ります。具体的な建物・外構整備のあり方については、基本構想策定後の計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
58	<p>屋外空間について（P 9） わくわくしながら美術館に足を運ぶように、街の美観・景観からも本八戸駅からのアベニューを通して欲しい。</p>	<p>中心街の回遊性を意識し、本八戸駅側からのアプローチについても考慮します。具体的な建物・外構整備のあり方については、基本構想策定後の計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
59	<p>屋外空間について（P 9） 街との敷地の連続性を考える上で、屋外空間をどのように設計するのが本計画の重要な部分であるように感じる。建物へのアプローチとなる屋外空間は建築の建ち方を決める重要な要素であるように感じる。屋外空間のしつらえがよければ、人々を敷地に吸引し建物へと誘導することが可能となる。屋外空間と建築物が別々のものとして計画されるのではなく、大きな一つのデザインコンセプトにまとめられ計画されることが重要であると感じる。</p>	<p>周辺の街並みとの調和や、回遊性を意識した整備を考える上で、建物と同様に屋外空間も重要な要素と認識していることから、建物と屋外空間と一体での整備を検討して参ります。</p>

No.	意見内容（概要）	市の考え方
60	<p>屋外空間について（P9） 美術館の顔となるようなインパクトのあるオブジェを設置して欲しい。青森県立美術館や十和田市現代美術館のように、ガイドブックに「是非行ってみたい美術館」として紹介されるくらいの素晴らしいものを希望する。外からの評価によって美術に関心のない人の入口となり、美術館に足を運んでもらえるきっかけにもなる。そのためにも屋外の空間はとても大事だと思う。</p>	<p>新しい美術館の具体的な建物・外構整備のあり方については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
61	<p>諸機能の整備イメージについて（P10） 近代主義的なゾーニングを用い、計画を進める事は合理的な手法と感じるが、パターン化され、その弊害もあるように感じる。エントランスホールが華やかでサービス空間が展示室に向かうだけの通路として計画されたり、展示室がそこに収蔵されるものとは無関係につくられることは新しい理念「アート・エデュケーション・ファーム」にとってふさわしくないように感じる。本計画の主要な機能であるエデュケーション機能と展示室の関係性をデザインすることで新たな空間が創造できる可能性があり、一つの機能を一つの空間に当てはめるのではなく、人々のアクティビティが空間を横断するような美術館になることを期待する。</p>	<p>有識者会議や市民勉強会等でも同様のご意見をいただいております。いくつかの機能については、自由度の高い横断的な使用を可能とする空間整備を検討しております。これを踏まえ、基本構想についても、新しい美術館の理念の具現化にふさわしい表現に修正いたします。</p>
62	<p>諸機能の整備イメージについて（P10） 市民に貸し出すスペースを多くとって欲しい。「会場が思うようにとれない、抽選で落ちて予定が立たない」という声を聞く。常設展示を削ってでも、今の会場の2倍でもあった方がいい。市の企画展も柔軟に考え、市民の使用希望の方を優先するなどの対応が必要。</p>	<p>現時点では、企画展示室と市民ギャラリーとを分けて整備する方向で検討を進めております。広さ等の具体的内容については、基本構想策定後の詳細な計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
63	<p>諸機能の整備イメージについて（P10） 常設展の展示方法は部屋を区切らずに年代別・時系列に作品を展示する方法。ホワイトキューブ独特の非日常性や人を寄せ付けない印象と違い、奥行きやにぎやかさを感じさせる展示方法がいいと思う。</p>	<p>常設展のあり方を含め、今後新しい美術館の諸機能整備を具体的に検討する際に参考といたします。</p>
64	<p>諸機能の整備イメージについて（P10） 収蔵品は博物館に収集されていると聞いているが、これからも収集は続けると思うので、大きめの収蔵庫を確保して欲しい。</p>	<p>現時点では、現在所有している収蔵作品に加え、新たに収集した作品を保管する可能性も視野に入れた十分な広さの収蔵庫整備を考えております。ご意見は、今後新しい美術館の具体的な諸機能整備を検討する際に参考といたします。</p>
65	<p>諸機能の整備イメージについて（P10） 搬入のしやすさを考え、大型車が楽に入れる広さの搬出入口を確保して欲しい。かつ展示場まで距離が近いほうがいい。また、展示室が2・3階にもある場合は、エレベーターの容量を大きくして欲しい。仙台メディアテークを参考に、4t車がまるまる入るくらいがいい。</p>	<p>使い勝手のよいバックヤードの整備を検討しておりますが、ご意見は、新しい美術館の諸機能整備を検討する際に参考といたします。</p>
66	<p>諸機能の整備イメージについて（P10） 建物外観は、開放的で明るいものにして欲しい。</p>	<p>新しい美術館の具体的な建物・外構整備のあり方については、基本構想策定後の計画策定段階において検討する予定です。ご意見は、今後の検討において参考といたします。</p>
67	<p>諸機能の整備イメージについて（P10） 施設の駐車場は最大限確保して欲しい。</p>	<p>新しい美術館の敷地面積が限られていることから、美術館に必要な機能整備を優先し、駐車場整備については周辺公共施設や民間駐車場の状況等も勘案しながら検討して参ります。</p>

No.	意見内容（概要）	市の考え方
68	<p>諸機能の整備イメージについて（P10） 八戸市近郊の美術館には、ほとんど必ず来館者用の無料駐車場がある。または、十和田市現代美術館のように美術館を利用すれば駐車券が発券され、近隣の駐車場を無料で利用できる。駐車場の不便さが美術館離れにつながらないよう、配慮して欲しい。</p>	<p>新しい美術館の敷地面積が限られていることから、美術館に必要な機能整備を優先し、駐車場整備については周辺公共施設や民間駐車場の状況等も勘案しながら検討して参ります。</p>
69	<p>諸機能の整備イメージについて（P10） 地方都市において中心街の駐車場整備は重要であり、十分な大きさの駐車場整備は来客数を確保する上でも必要不可欠。しかし今回の計画では用地の制約が大きく、大きな立体駐車場を造ることもかなり工夫が必要で困難であることから、地下駐車場を整備するべきと考える。建設費用はかかるが、中心街に整備する上ではやむを得ないものであり、はっちや更上閣など他の施設で不足している駐車場を補うこともできる。</p>	<p>新しい美術館の敷地面積が限られていることから、美術館に必要な機能整備を優先し、駐車場整備については周辺公共施設や民間駐車場の状況等も勘案しながら検討して参ります。</p>
70	<p>運営・事業推進体制について（P11） 館長を早期選出するべき。中央の美術界に精通した人、人脈、情報、経験豊富な人を選ぶべき。</p>	<p>館長の選定については新しい美術館の整備を進める上で重要な要素の一つと認識しております。ご意見は、今後の参考といたします。</p>
71	<p>運営・事業推進体制について（P11） まずプロデューサー（総監督）を決めることから始めてはどうか。基本理念と予算が決まった今、全域にわたって考察できるビッグネームなプロデューサーのもとに、地元の有識者をディレクターとする良い意味でのヒエラルキーを構成させることが最善と思う。プロデューサーが有能かつビッグでないと発言力と影響力の大きい商工会の有力者や議員、地元の有識者等の方々を力強く引っ張っていくことができない。まして国のお金の絡む話だと、関係省庁の意向に左右されることなく基本理念と構想を推し進める必要がある。美術館の建物設計者から目玉となる作品の選択等まで関わることになり、構造物設計にしてもアート作品とのバランスもあり、プロデューサーの考察のもとに進められるべき。本当に良いものを作るためには一部から必ず出るであろう批判を覚悟しなければならず、アートや芸術性は民主的ということにおもねてはならない事も出てくる。</p>	<p>開館後の運営体制を想定した形で、計画・準備段階からディレクター的立場の人材や専門職員等を確保しながら新しい美術館の整備を進めて参りたいと考えております。</p>
72	<p>運営・事業推進体制について（P11） 準備室の段階でキャリアのある学芸員（美術館としての勤務経験がある）、もしくは地方都市の美術館事業を知る学芸員が必要。他の美術館でも準備室の段階で初期メンバーの学芸員を雇用し、その方たちが大きな発言権と推進力を持って構想を進めていったことが成功の理由のひとつとなっているほか、準備室段階で雇用した方のほとんどが経験の浅い人たちで構成された別の美術館では、行政もノウハウがなく、誰もが想像しやすかった市民ギャラリーのような内装や構造になってしまい、開館後に予算・設備の両面で問題が浮かびあがったという話を聞いた。有識者や市民美術館者のヒアリングだけでなく、内部から継続的に関わられ、責任を持って美術館を作っていく学芸員が必要。</p>	<p>開館後の運営体制を想定した形で、計画・準備段階からディレクター的立場の人材や専門職員等を確保しながら新しい美術館の整備を進めて参りたいと考えております。</p>
73	<p>運営・事業推進体制について（P11） オープンに向けた職員訓練が必要。館長、学芸員、臨時職員、アルバイト、サポーターなど、職員一人一人の役割分担をしてスムーズに動けるように訓練を積むべき。</p>	<p>開館後の運営体制を想定した形で、計画・準備段階から各役割を担うスタッフを確保するとともに、オープンに向けた職員研修等を行って参りたいと考えております。</p>

No.	意見内容（概要）	市の考え方
74	建築設計者の選定について（P14） 有名建築デザイナーということを選定の基準におかず、八戸の新しい美術館構想の理念を理解し、運営・事業に携わる方たちとコミュニケーションをとって練り上げていくことのできる方を選定して欲しい。	新しい美術館の理念を正確に捉え、コミュニケーションを図りながらデザインできる設計者を選定できるよう、最適な方法を検討して参ります。
75	整備に向けた取組について（P15） オリンピックに便乗させた大規模な宣伝をするべき。「日本で一番新しい美術館」、「今春オープンしたばかりの八戸市アートミュージアム」。	今後新しい美術館のオープンに向けた広報活動やプレ事業等を検討する際に参考といたします。
76	整備に向けた取組について（P15） シンポジウムを早急に開催して欲しい。市民が参加しなければ美術館の存続はあり得ない。7～8月中に是非開催して欲しい。	市民団体との共催により、7月に新しい美術館を考える市民勉強会を開催しております。今後も、新美術館の整備に向けたシンポジウムや勉強会などを随時開催して参ります。
77	新美術館設計者選定にかかる審査員について 設計者選定にかかる審査員について、アトリエ事務所に勤めている大学の先輩達と話し合ったので、何人か候補者として推薦したい。	審査員の候補者について一般の方からの推薦は受け付けておりません。
78	基本構想の記述について 全体にカタカナ語、聞きなれない語が多い。市民がよくわかる八戸の地域に根ざした言語での記述が欲しい。	なるべくわかりやすい言葉を使うように努めておりますが、やむを得ず専門用語等を用いる場合は注釈を付したり、前後にわかりやすい表現を加えるようにいたします。
79	予算について 市の予算の中に、美術館経費を何%にするのか検討しておくべき。	今後新しい美術館の管理運営のあり方について検討する際に参考といたします。
80	寄付金集めについて 新美術館建設に寄付をしたい人がたくさんいると思われるので、早急に具体策を検討し進めて欲しい。	新しい美術館の建設にあたって寄付を希望される方の情報を収集しながら、寄付金の受け入れ・活用方法について検討して参ります。
81	グッズの制作について 元湊中学校の坂本小九郎先生の版画の原画を応用してグッズを制作してはどうか。原画が「魔女の宅急便」のモデルに使われており、日本国内で有名。	今後新しい美術館の事業を検討する際に参考といたします。
82	シンボルマークについて ∞：八美マーク、無限大マーク。限りなく発展するように祈って、八戸の「八」を算用数字の8に置き換え、横書きにデザインしたもの。	シンボルマークの制作については、その必要性も含めて今後検討して参ります。
83	新美術館開館までの美術館利用について 新美術館開館までの間、美術イベントはどこで開催するのか。学校関連の展示は廃校を利用するとか、三日町のブックセンターを美術分野に優先利用させるとか、市庁舎の一部解放など分散させて対処すべきと思う。わずか数年の建設期間だが、美術分野の活動にわずかの停滞もあってはいけないと思う。	現美術館閉館後の市民の美術活動の支援のあり方について、市内の公共・民間の展示スペースに関する情報収集・発信など検討して参ります。
84	新美術館での新商品採用について 八戸市の新商品開発として認定を受けている、磁石がつく壁を新美術館で採用して欲しい。美術館の壁の一部に磁石がつく空間をつくることは世界に例を見ない取り組みだと思う。	今後新しい美術館の建物整備を検討する際に参考といたします。
85	その他 この構想の外に、右脳を活性化させると認知症が改善するというプログラムに挑戦してはどうか。	今後新しい美術館の事業を検討する際に参考にといたします。